

親バカになっても バカ親になるな!

親バカとは、子どもかわいさのあまり、他人の目には愚かに映る行動をとってしまう親。では、バカ親とはどんな親でしょうか？ 親バカとバカ親の境界線は、どこにあるのでしょうか？ 専門行動療法士・臨床心理士の奥田健次先生と一緒に、あんふあん読者が送ってくれた具体例を見ていきます。監修／西東桂子

どっちなのかまずはあなたが判断！ ケース①～⑥は、親バカバカ親のどちらだと思えますか？ チェック欄に記入してから、記事を読んでみてください。

case 1

わが娘がいとおしくて、毎朝出勤するとき「パパ、マユちゃんと離れたくないけど、お仕事行ってくるね」と涙目で娘に言っている父親。



チェック欄 親バカ or バカ親

case 2

園の写真販売で、どんなに小さくてもわが子が写っている写真を買っていたら、1万円を超えてしまった親。



チェック欄 親バカ or バカ親

case 3

「子どもが三輪車が好きで降りたがらないから」と、スーパーの中でも三輪車に乗らせている親。



チェック欄 親バカ or バカ親

case 4

少しのかすり傷で園に怒鳴り込む親。園で蚊に刺されて帰ってきたと（ Deng 熱とは無関係）、怒って園に蚊の徹底駆除を要請する親。



チェック欄 親バカ or バカ親

case 5

園の運動会。撮影エリアで自分の子どもの名前を延々と叫ぶ親。録画したのを見ると、その人の叫んでいる声が入っている。



チェック欄 親バカ or バカ親

case 6

「息子にはいいお友達をつくってあげたいから、習い事などの場で私が探す」と言う母親。



チェック欄 親バカ or バカ親



●お話を聞いたのは
奥田健次先生
おくだ けんじ 専門行動療法士、臨床心理士、発達につまずきのある子どもと家族への指導で、世界各国からの支援要請にも応えている心理臨床家。桜花学園大学大学院客員教授などを経て、2012年4月、西村洋平に行動コーチングアカデミーを設立。長野県に私立幼稚園を設置申請し、注目を集めている。「拝啓、アスペルガー先生 私の支援記録より」（飛鳥新社）など著書多数。

「かわいいやん」と思えたら親バカ
あんふあん読者に「あなたが見た親バカ、バカ親のエピソード」を募集したところ、たくさん集まりました。その中から編集部が8つピックアップしました。中には、親バカなのかバカ親なのか迷ったものもありました。親バカ、バカ親はどう見分けられるのでしょうか？
奥田 まず、ケース①と②を読んで、僕は「かわいいやん」と思いました。一方、ケース③と④は、「かわいいやん」とは言えない。何かが引っ掛かっているわけです。言葉にすると、「そらアカンで」「周

りも困ってるで」といった感じですね。
学問的な定義ではなく、とても主観的だけど、「かわいいやん」と思えるものは、ほぼ親バカと言えるでしょう。思えないものは「バカ親」、もしくは「バカ親かも」と緊わかれても仕方ありません。もう一つの見分け方として、周囲に迷惑を掛けているかどうかというモノサシがありますね。ケース③はまさに迷惑を掛けてますよね。ただ、迷惑を掛けているけれど切羽詰まり度によって、許されるものもあります。
例えば、トイレ待ちの長い行列ができているときに、後から来たのに先頭に割り込んだけれど迷惑ですよね。でも、連れている子がお漏らし寸前だったから、許されるでしょ。とはいえ、このときに「切羽詰まってるんだから当たり前でしょ！」という態度ならバカ親になってしまいます。申し訳なさそうに、「すみません！息子が出ちゃいそうなんです」と頭を一つ下げただけでバカ親ではなくなります。
自分には迷惑でも「じゃあない」ことが
ケース⑤は読者がバカ親の事例として挙げてくれたものです。ビデオ撮影をしていたお母さんは、迷惑を掛け



CASE 8

園の運動会の徒競走でビリだった子どもに、「一番だよ！ 後ろから一番だから、一番に変わりないよ！」という親。



チェック欄 親バカ or バカ親

CASE 7

家の外でも、わが子を「～ちゃん」「～くん」と「ちゃん・くん」付けて呼ぶ親。



チェック欄 親バカ or バカ親

て挙げている読者が結構いて、意外に感じた事例です。
奥田 僕としてはちよつと気持ち悪いけど、本当に叱るべきときに「ちゃん・くん」を付けていなければえんちゃんやう？「健ちゃん、やめなさい！」ではなく、「健次、やめなさい！」と言っていれば、まあええかなと思います。

といけないときがきます。それに気付ければ、バカ親に転落です。
 ただ猫かわいがりするので、越える力を付けさせられる親、賢い親になってほしい。それを、親バカを卒業した、エエ親、と呼びましょう。

族みんなで、子どもが楽しみにしていた映画を見に行く予定だったとしましょう。映画館に行くために電車に乗っていると、子どもが騒いだしました。

し、それでも騒いだら本当に映画を中止にします。子どもが泣くのが騒ぐうが「しようがないよね、また今度」の一点張りです。それによって子どもは、自分のやった行動には責任が伴うことを学びます。

ない。9歳くらいまでは、親が子どもの友達関係をプロデュースするのがいいと思っただけで、誤解のないように言っておくと、「あの子と遊びなさい」とか、「あの子と遊んじやだめ」とか言うのではなく、お母さんが友達になっしてほしいと思う子とわが子が良い関係をつくれるように何気なく持っていくという意味です。

親が子どもの友達づくりに介入するのはいかなものかと思うのですが、いずれは子ども自身が友達を選んでいきます。だから親が選べるうちは、親を選んでいい。
 なるほど。これは、目からウロコ。でした。

びに行ってもいいかなと思うわけですね。うちの子の友達になってほしいとお母さんが思う子がいるのなら、「まずは、それでええがな」なんです。最初はその子がうちの子に会いたくない遊びに来ていいるのではなくても、何度か来ているうちに、お母さんが上手に間を取り持っていけば、二人が遊べるようになるかもしれません。

ミツパチが花粉を運ぶことで実がつくように、お母さんがミツパチになって子ども同士の間をつくるのはいいことなんです。ですから習い事などの場所で、親がいい友達を探すというのは、バカ親ではありません。



読者アンケートの「バカ親」からピックアップ

自分のことしか考えていない「論外親」

- 公共の場で騒いでいる子どもがいるのに、注意もせず携帯電話の画面ばかり見ている親。
- 子どもが歩道で広がって歩いていても、注意しない親御さんには困ります。ママ同士のおしゃべりも、大切なのは分かりますが、周りに迷惑を掛けてはいけないと思います。何よりお子さんに何かあっては、危険では？
- 公共のおもちゃを乱暴に使って「これ動かない」と文句を言っている子がいたので、その子に使い方を教えてあげたら、「ほら、そんなの触ってるから怒られるんだよ」と言って、まったく子どもの相手をしてなかった母親。
- 電車の優先席に座っていた親子の前に、杖をついたおじさんが乗ってきました。母親は子どもに「あなたは疲れてるんだから座っていいのよ」と。母親が席を立つのかと思いきや、なんと寝始めました。結局、その子の隣にいたおばあさんが席を譲りました。
- 公共の場で、マナーを守っていない子どもがいました。近くにいた人が、その子を注意したのですが、その子の親は子どもを叱るところか、注意をしてくれた人を非難し始めました。